FRIENDS OF GREEN

No.81　1993年４月発行

第26回全国印刷緑友会横浜・東京セミナー

白井会長挨拶・横浜・東京セミナー実行委員長挨拶
第26回横浜・東京セミナー報告・会社紹介(昇文堂)
インフォメーション

全国印刷緑友会

第26回全国印刷緑友会横浜・東京セミナー

YOKOHAMA TOKYO SEMINAR

全国印刷緑友会会長
白井　秀幸

厳しい冬の予想ははずれ、早やさわやかな春がやってまいりました。会員の皆様にはお元気でご活躍のことと存じます。

さる2月13日開催の横浜・東京セミナーには300名を超える多数の方々のご参加をいただき、心から御礼を申しあげます。また在京グループ会員各位の絶大なご尽力により、有意義で内容の濃いセミナーが開催できたものと感謝申しあげます。

さて、セミナー第一講は私たちの先輩、中村守利氏に「緑友会で学んだ経営者の心」というタイトルでご講演をいただきました。昭和33年9月、グループ間の連携と人間形成を目的に発足した印刷緑友会――謙虚にして高邁な精神のもと、人間形成を「感性の誘発」に置いた、初代会長市村道徳氏の教えを経営者の第一のマインドとしてあげられました。感動や情感という「心」で得たものは、いつまでも忘れられないものであり、それが人を魅きつけるもととなっていくからなのでしょう。理性の時代から感性の時代へと転換しつつある今、本物の感性誘発が可能な緑友の良さを再認識させられた次第です。

経営者の第2のマインドとして神戸印刷若人会の武氏から得た「行動力」をあげられ、迫力や人間の大きさは、その人の「行動力」によって表面に出てくるものだと実感いたしました。まちづくりの一環として始められた植樹を、若人会が今も続けておられる行動力の源はここにあった訳です。

そして、中村先輩から何度も伺った、12代会長作道氏から得た「信念」の強さを経営者の第3のマインドとして上げておられます。作道氏が会長をお引き受けになる時のエピソードは何度聞いても感動を覚えるものであり、経営者には絶対必要なマインドだと、再認識させられました。

人間形成こそ、経営者にとって究極の目標ではありますが、中村先輩は三者の人格について、市村氏に「高さ」を、作道氏に「深さ」を、武氏に「広さ」を見たと語られ、絶えず問題意識を持って行動することにより、その実現を可能とするものであることを解かれたわけであります。

私たちは「納得の論理」で社員と触れ合い、真の責任感を引き出さねばならないことを痛感させられました。

セミナー第二講では、緑友メンバーによる「人を活かす」をテーマにした三分科会にわかれての講演でしたが、私たちが直面しているテーマですので、自社を革新するヒントとして十分明日から使え

る実戦的な内容であったと思います。

　私はB講を受講させていただきましたが、薊先生の豊富な体験に基く内容に引き付けられ、A講、C講は残念ながら拝聴することができず、できれば三講とも伺うことができればと思った次第です。

　横浜・東京セミナーは「経営の心」と「経営の技術」をテーマに、手作りで緑友セミナーの原点を模索した内容として高く評価できるもので、在京9グループの熱意と行動力に改めて深く敬意を表するものです。

　さて、平成3年5月、札幌総会において会長に選任されもう2年、まもなくその任を終えようとしております。私が掲げた3つの目標は「イノベーション」「ネットワーク作り」「マーケット作り」……

　時まさに不況に突入を余儀なくされ、高度成長、バブルの「付け」を清算、リストラによる企業体質の変革を実施した2年間となりました。「イノベーション」は必然的に実行されたわけです。しかし、

第26回全国印刷緑友会横浜・東京セミナーを終えて

緑友の仲間には中村先輩の講演にもありましたように、緑友会で培われた本物の「感性」を持ち合わせており、同じイノベーションを行っても、一段グレードの高い結果が期待できるものと信じております。

　第二の目標として掲げた「ネットワーク作り」は、私たちの中小印刷業が大手と戦っていくための有効な手段であり、実行にあたっては「人」のネットワーク＝「心」のネットワークがまず必要であり、前会長城戸憲次君の掲げた「ハーティ　コミュニケーション」こそ、そのベースでありました。

　会員名簿には、何をネットワークしたいかを書いていただきました。完成が遅れてしまい大変ご迷惑をおかけしましたが、「心」のネットワークをベースに、事業経営に反映したネットワークをぜひ実現していただきたくお願いを申しあげます。

　第三の目標として掲げた「マーケット作り」は、何ら具体化、具現化はできませんでしたが、すでに新しいマーケットを見つけられ、活躍されているメンバーも拝聞しており、ネットワーク作りと併せて実行されますことを切望申しあげます。

　この二年間、常任幹事各位、及び会員皆様の友情とご支援に支えられ、微力の私が大過なくその責務を果せましたことに心から感謝を申しあげる次第です。

　まもなく、第36回総会が大分の地で開催され、新しい常任幹事によるチャレンジが始まろうとしております。大分でお会いできますことを心より願っております。

全国印刷緑友会の皆様、去る二月の横浜・東京セミナーには多数のご参加を頂き本当にありがとうございました。

ご来賓の皆様をはじめ、全国緑友の同志を迎え開催されましたことは、私ども在京グループにとって大きな喜びでございます。

さて、業界をとり巻く経済環境が更に深刻化しているなかで、いかに企業を存続していくかの局面を迎えている事実を、真剣に受けとめなければなりません。

今回のセミナーでは、白井会長が唱えている「イノベーション」「ネットワーク作り」「マーケット作り」の中の「人を活かす」イノベーションを中心に講話いたしました。第一講では第十四代全国印刷緑友会会長、中村守利先輩に、緑友会での人との出逢いから学んだ経営者の心を語って頂きました。第二講の三分科会では、我々が直面している問題解決に役立つ講演を行いました。

今回は緑友会セミナーの原点に帰り、「セミナーらしく」を基本に進行しましたが、何かとご不便をお掛けしたと思いますが、お許し頂きたいと存じます。

最後に、大変お忙しいところご協力いただきました、中村先輩始め、白井慶吾氏、薊周次氏、仲林勝利氏の講師の皆様には厚く御礼申し上げます。

皆様のご健勝と企業のご発展を祈念しご挨拶とさせて頂きます。

横浜・東京セミナー実行委員長
利根川　政明

第二十六回全国印刷緑友会、横浜・東京セミナーは、平成五年二月十三日、横浜中華街にある「ホリデイ・イン横浜」で開催された。

今回の緑友セミナーは、神奈川正和会を含む在京九グループが担当幹事となり、「横浜・東京セミナー」として開催された。在京会員を中心に、札幌から沖縄まで約三百五十名が横浜に集まった。

開講式は午後一時に始まり、神奈川正和会の川上彰久氏の司会で進行。開会宣言、国歌斉唱、綱領唱和、参加グループ紹介のあと、利根川政明実行委員長（文京緑友会）があいさつし、「業界を取り巻く環境は厳しいが、今こそ緑友会の若い力を結集してこの不況を乗り切っていかなければならないときだ」と前置きしたうえで、今回のセミナーの構成を白井会長の唱える「イノベーション」「ネットワーク作り」「マーケット作り」のなかから〝人を活かす〟イノベーションを中心にしたことを説明した。

続いて、白井会長が次のようにあいさつした。

「昨年はかつて経験したことのない不況のなかで、それが都会から地方へと浸透していったと聞いている。今こそ経営の原理・原則を見直す努力が必要だ。加えて現状を乗り越えていく革新力が求められている。革新のために最大のポイントとなるのは〝人〟である、本日のセミナーも〝人〟について講師の方々にお願いした。

緑友会は、今こそ力を結集して業界の推進役とならなければならない。今年はそのための大事な一年だ」

来賓は、神奈川県印工組の杉本理事長と東印工組東京青年印刷人協議会の佐々木議長の予定であったが、欠席のため、平井副理事長と日比野副議長がそれぞれ代理であいさつを述べた。

講演は午後一時四十分から始まった。第一講は、中村守利氏が「緑友会で学んだ経営者の心」をテーマに約一時間半講演した。中村氏は、歴代会長との付き合いなどから他人と触れ合い、刺激し合うことによって自分が触発・啓発され、

受付にて

白井会長の挨拶

開講式にて

利根川実行委員長挨拶

講師入場

中村守利氏

白井慶吾氏(スタッフエス)

薊周次氏(小森コーポレーション)

乾杯

仲村勝利氏(金山印刷)

パーティ会場にて

感性を磨かれてきたことを顧みて、「緑友会は感性のトレーニングの場である。二十一世紀は感性の時代と言われているが、現代は感性が理性に圧迫されている。感性は、人間の命を支えているものであり、緑友会は感性の集まりでなければならない」と訴えた。また、経営者として社員との接し方について、「仕事をさせる時は、理性に向かって説得するのではなく、感性に向かって納得させることが大切である。感性が納得すれば、自ずと責任感が生まれてくる」と説いた。

三時半からの第二講は分科会形式で行われた。「人を活かす」をテーマに緑友会メンバーの白井慶吾(㈱スタッフエス代表取締役社長)、薊周次(㈱小森コーポレーション国内営業本部印刷技術部長)、仲林勝利(金山印刷㈱千葉工場長)の三氏が、ハード・ソフトの両面から人材活用について講演した。

懇親会は石川正憲氏の司会で進められ、はじめに白井会長があいさつ、「中小印刷業が生き延びるためにはネットワーク、情報交換が

残された方法である。胸襟を開いて大いに話し合い、悩みを一つでも解決し、お互いの友情を深めてほしい」と述べた。

城戸憲次前緑友会会長の発声で乾杯の祝宴となった。五月十五日に開催される第三六回全国印刷緑友会大分総会を主管する大分印刷若梅会と、八月六、七日に開催される第三六回全国印刷緑友会あおもり大会を主管する青森印刷青年経営者会議のメンバーが紹介され、それぞれがPRして参加を呼び掛けた。白井会長から次回セミナーを主管する福岡印刷若葉会の玉川久雄幹事長にセミナー旗が伝達された。

会社紹介

株式会社 昇文堂

東京都千代田区神田佐久間町4-6
取締役社長 斎田精一（千代田印刷人新世会）

創業精神と独自性を目指して

当社は明治三十二年、大蔵省造幣局にて石版印刷の技術を修得した斎田鶴松が神田同朋町において昇文堂斎田印刷所を創設したのが始まりである。

その後、幾多の苦難をくぐり抜け、神田佐久間町に移転、昭和23年に父、政司が会社組織に改めて現在に至っている。あと6年で創業百年の老舗なのですが、現在、資本金2300万円、従業員14名にて小規模ながら果敢にチャレンジしている。（尚、当社のことは全日空機内誌「翼の王国」5月号にて紹介される。）

そして当社の収益は、もちろんプリントメディアであり、①紙器包装資材関連②美術印刷関連③マニュアル書籍関連の三本柱を主流として受注しているが、そのほか、多様化された仕事に対応すべく、企画制作、翻訳業務から印刷やさまざまな加工に至るまでトータルに管理する態勢を確立している。

●現存する昭和初期の石版印刷によるラベル見本帳

我社の営業戦略

当社の印刷機械はローランド三色機にて、パッケージから少ロットのさまざまな商業印刷物を印刷することができ、営業的には紙以外の素材、例えば布地の印刷やしたじき（ユポにエンビ）の製造にも最近では挑戦している。そしてあまり採算のあわない手を使用しないと出来ない面倒なアッセンブリー業務まで引受け得意先の手足を目指しています。そのほか、マニュア向け手品トランプの印刷、現在までに200万個以上販売したアートバンクの台紙は、精密な製品に好評を博した。

●ユニチカが開発した土や海の微生物に反応して、溶解する新素材であるが、オフセットカラー印刷に初めて成功する。（写真はこの新素材を使った環境保護団体のメンバースカードです）

バータービジネスを利用

バータービジネスという言葉をご存知でしょうか。一言でいえば、「物々交換」の現代版である。そのルーツはアメリカで、現在、参加企業20万社、年間バーター取扱高5兆円の市場を形成しているそうである。

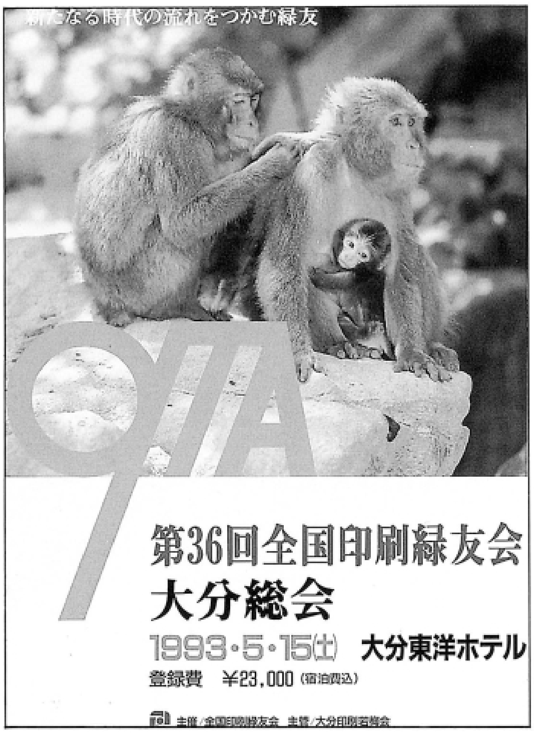
当社は8年前から注目、会員になり積極的に需要拡大と新規得意先獲得の手段としてきましたのでここにご紹介いたします。その運営システムは、会員は中小企業か、あるいは個人事業主で構成され、まず、入会金を40万円払うと、口座が開設され、50万円分のトレードチェックが渡される。そのトレードチェックで、他の会員から必要な商品を購入することができる。

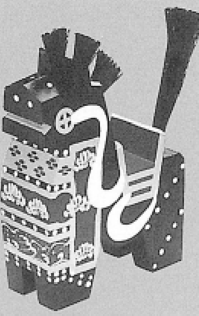
この時、負債が発生するが、その額の分だけ自社の商品、あるいはサービスを提供することで、決済するのである。つまり、手に入れたい商品を自社の在庫と交換に入手できるのである。もちろん現金の併用もできるわけで、現在会員は電器商社、旅行会社、弁護士、出版社など全国で400社を数える。

印刷は特に需要が多いのでご興味のある方は左記に問合せてください。

トレードクリエーション
西島雅男
TEL〇三—三九八六—九九〇五
FAX〇三—五三九六—六六八一

INFORMATION





◎期　　日　平成5年8月6日(金)・7日(土)

◎大会・懇親会会場　青森グランドホテル

◎基本日程

8月6日

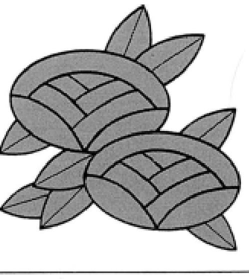
12：00～	登録受付
13：30～14：30	式　典
14：30～15：45	記念講演
16：15～16：30	記念撮影（メモリアルシップ「八甲田丸」）
17：00～18：30	懇親会
18：40～19：00	ねぶた観覧席へ移動
19：00～21：00	語り合いタイム（ねぶた観覧）

8月7日

7：00～8：30	グループ長会議（青森グランドホテル）

◎大会登録料　¥30,000（登録料28,000円・ねぶた観覧席料2,000円）

同伴者　¥22,000（登録料20,000円・ねぶた観覧席料2,000円）



全国印刷緑友会

FRIENDS OF GREEN

FRIENDS OF GREEN　No.81
〒920-03 金沢市打木町東365
TEL. 0762 (40) 3700
発行人 白井秀幸(金沢青年印刷人クラブ)
編集人 千代田印刷人新世会